

## 第2期加東市教育大綱における令和5年度の取組成果について

基本方針/基本的方向		
I 未来を切り拓く子どもを育む 小中一貫教育の推進 ～学びの連続性を大切にした教育の充実～	取組成果	担当課
①「確かな学力」の育成	<p>市独自の総合学力調査で、経年比較により成果が見られた取組事例を共有し、学力向上に向けた授業改善に取り組めた。</p> <p>スタディライフに参加した長期休業中の児童生徒の約9割が、家でも自主学習をしたいと回答し、家庭学習の意欲向上が見られた。</p> <p>「わくわく英語村」に3日間、延べ114名の中学生が参加し、オールイングリッシュで臨み、より主体的なコミュニケーションを育んだ。</p> <p>英語検定チャレンジ事業を利用する生徒の割合が86.2%となり、昨年度から18%増加した。</p> <p>PCを扱う全教職員対象に情報セキュリティ研修を行い、セキュリティモラルの向上を図った。</p>	学校教育課 小中一貫教育推進室
②夢や志を持ち挑戦する力の育成	<p>大学教授やJAXA関連団体の講師等による授業を行い、専門的な技能や知識に触れ、児童の興味関心を高めることができた。</p> <p>部活動では、プロスポーツ選手から直接指導を受け、技術の向上を実感することで生徒の可能性を広げることができた。</p> <p>トライやる・ウィークでは、今後の自分の生き方や人との関りについて考えることができ、「人とふれあうことの楽しさ」を感じた生徒の割合が57.3%に上昇した。(R4年度 55.3%)</p> <p>ふるさと学習「かとう学」副読本を活用した「副読本実践事例集」の活用により、活用教科が9教科から10教科へ広がり、ふるさと意識の醸成につながった。</p> <p>東条学園小中学校では、開校3年目を迎え、新たな学校生活を求めて、学園生会が主体となった校則の見直しが始まった。</p>	学校教育課 小中一貫教育推進室
③「豊かな心」の育成	<p>自然学校やわくわくオーケストラなどの体験活動を通して、感動する心、生命に対する畏敬の念、共に生きる心、主体的に判断する力を培うことができた。</p> <p>道徳の授業では、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」児童生徒の割合が上昇した。</p> <p>道徳実践では、教材への向き合い方や授業づくりの基本など、教員のキャリアステージに応じた実践的な指導力の向上が図られた。</p> <p>人権教育スキルアップ研修を通じて、教職員の共生社会の生き方や同和問題についての関心や理解を深めることができた。</p> <p>外国人児童生徒等支援連絡協議会での情報共有によって、外国人児童生徒の支援や受入れに当たり、具体的かつ有益な支援につなげることができた。</p> <p>昨年度の学校安全(防災)支援事業の気象災害モデル校の実践を活かし、防災訓練や防災課と連携した自主防災組織合同防災訓練により、自らの生命を守る主体的な行動をとる力を育めた。</p> <p>1月17日には、阪神淡路大震災や能登半島地震、身近な災害に関連する防災教育を実施し、助け合いやボランティア精神等の共生の心の育成に取り組んだ。</p>	学校教育課

④「健やかな体」の育成	<p>市内児童生徒の運動能力の課題（柔軟性）と改善に向けた取組を共有・周知し、改善の取組を広げた。</p> <p>PE（体育）マスター派遣事業による個別のアドバイスにより、意欲的に自己の能力を高めようとする児童の姿が見られた。</p> <p>かとう夢授業では、高度な技術や指導に触れ、部活動へ取り組む意欲の向上につながった。</p> <p>部活動あり方検討委員会では、関係団体・保護者・教員が、現状の共有や今後の部活動の進むべき方向性について、具体的な協議を進めた。</p> <p>薬物乱用防止教室が小学校でも定着し、早い段階で学習することで、正しい知識と行動がとれ、誘惑に流されない学習ができた。</p> <p>交通安全では、積極的な啓発、見守り隊の協力などによって規範意識が身に付いてきている。また、不審者対応訓練により、危険から身を守る方法を学ぶことができた。</p> <p>朝食を毎日食べる児童生徒の割合が約8割であるため、学校給食センター栄養教諭が中心となり、朝食の重要性や効果等を紹介したパンフレットを作成・配布し、各校における喫食率向上を図る指導を支援した。</p> <p>かとう夢プラン「楽しみのある学校給食特別メニュー」を月一回取り入れ、給食で食べることの楽しみを持たせ、学校生活の励みとなる取組を継続して行うことができた。</p>	<p>学校教育課 学校給食センター</p>
⑤インクルーシブ教育の充実	<p>多職種による相談日を設けることで様々な相談に対応し、支援の必要な人がその人らしく生活できるようにサポートすることができた。</p>	<p>発達サポートセンター</p>
⑥幼児教育の充実	<p>公立3園の交流保育の増加により、園児の成長や保護者の安心につながったほか、保育内容や行事計画等を共有できたことで、幼児教育・保育の提供体制の整備が進んだ。</p> <p>保育士等就業支援事業により、保育士等を確保することで、幼児教育・保育環境の充実につながった。</p> <p>「保育士等キャリアアップ研修」により、教育・保育の質の向上が図れた。（参加者237人）</p> <p>幼児期人権教育親子セミナーに参加した5歳児の親子65組へのアンケートによる満足度は100%で、親子で絶対人権感覚を培った。</p> <p>指導者養成セミナーの受講者が「人権啓発プログラム」を園内で実践し、幼児期の「やさしさ」や「思いやり」の心を育むことができた。（15園）</p>	<p>こども教育課</p>

基本方針/基本的方向	取組成果	担当課
II 子どもの学びを支える教育環境の整備		
①学校の組織力及び教職員の資質能力の向上	<p>小中一貫教育研修では、主幹教諭が中心となり社地域ならではの組織作りが推進できた。また、社地域小中一貫校開校に向けて社地域の小中学校が情報共有を図り、各学校で取り組むべき方向性を確認することができた。</p> <p>児童生徒質問紙調査の結果を分析し、全教職員で事例検討及び児童生徒理解研修を行った。</p> <p>KATOプロジェクトでは、児童生徒会主体でいじめ未然防止活動を発表し、また、教職員対象の居心地の良い学級づくりの研修により、児童生徒と教員が両輪となっていじめ防止に取り組んだ。</p> <p>教育支援センター（旧適応指導教室）を3教室に増やし、学習や友達との関わり等を通じて、学校復帰を目指す意欲の高まりにつながった。</p> <p>不登校支援研究推進校の3年間の成果を、不登校支援マニュアルに反映させた。</p> <p>定期的にハラスメント防止研修会の開催により、教員の人権意識を高めた。</p> <p>学校保護者連絡ツール（テトル）の導入により、保護者からの欠席連絡の電話対応が減少した。また、学校通信等の文書もテトルにより保護者に直接届けることができるようになった。</p> <p>働き方改革（業務改善）推進委員会では、全職種の見解を聞き、働きやすい職場環境を推進するとともに、働き方改革に対する教員の意識が高くなってきている。</p>	学校教育課
②家庭・地域の力を生かした教育の充実	<p>テトルの活用により、保護者への情報発信や、保護者からの問合せ等が円滑にできた。</p> <p>情報モラル研修会では、対象を小学生高学年から中学年からに変更したことで、早期啓発を推進できた。</p> <p>学校だけで対応困難な事案は、教育委員会や弁護士相談を活用し、子どもや保護者に寄り添って支援している。</p> <p>不登校に関する相談は、早期に教育支援センター担当者に対応し、子どもの学びの場を確保した。</p> <p>子育て中の親子の相互交流や子育ての不安・悩みの相談を継続して行うことで、子育ての不安感、負担感の軽減につながった。</p> <p>加東市連合PTA研修会では、保護者の意見を取り入れ、「楽しく学ぶ 令和の思春期」と題した研修会を開催し、保護者のニーズに沿った内容にすることで、より有意義な学ぶ機会をもつことができた。</p> <p>子育て応援ネット推進連絡会では、昔遊びやニュースポーツを通じて地域と三世代間での交流を図り、参加者が増加した。</p> <p>小学生チャレンジスクール事業では、学校外の異年齢間の体験活動を通して、社会性や自主性の向上につながった。</p> <p>地域子ども教室では、多様な年齢や地域の方と幅広く関わることで、人間関係、ルール・マナー、仲間づくり等の術を学ぶことができた。また、生涯学習サポーター倶楽部登録の講師等と連携し、各事業において、子どもたちに体験活動の機会を提供することができた。</p> <p>ノーベル大賞では、テーマを「『昆虫の調べ方とまとめ方』～今、里山のチョウが危ない！！～」とし、子どもたちの研究意欲を高めることができた。</p> <p>東条学園小中学校では、地域学校協働本部と連携し、「東条学園応援サポーター」を募集し、学習支援や環境整備、見守り活動への参画を推進した。</p> <p>ネットパトロールで得た最新の情報をもとに、タイミングを逃すことなく、児童生徒への的確な指導を行うことができた。</p> <p>学校・警察連絡会を継続開催したことで、学校・警察・教育委員会の連携を強化し、個別対応が迅速にできるようになった。</p> <p>通学路安全プログラムでは、社地域の新通学路19か所を含む74か所の安全対策を検討し、点検結果をホームページに掲載した。</p>	学校教育課 小中一貫教育推進室 こども教育課 生涯学習課

	<p>③学校施設の整備と就学支援</p>	<p>社地域小中一貫校では、令和5年12月に新体育館が完成し、供用を開始した。また、開校準備委員会において、通学方法の変更、スクールバスの乗降場所、徒歩通学路について協議し決定した。</p> <p>滝野地域小中一貫校では、用地取得、物件移転補償契約が完了した。また、開校準備委員会や教職員と協議し、基本設計をまとめた。加えて、開校準備委員会では、開校時期、通学方法の変更、スクールバスの乗降場所について協議し決定した。なお、開校時期については、工事中の学校生活への影響と生徒の安全確保を考慮し、令和9年度から令和10年度に変更した。</p> <p>耐力度調査の結果により、閉校する滝野地域小学校施設の利活用検討資料として活用できた。</p> <p>I C T整備では、書画カメラの導入により、効率的かつ効果的な授業の実施が図られた。また、集約化したサーバーの更新によりI C T機器の維持管理の簡素化、効率化が図られた。</p> <p>就学援助及び就学奨励事業では、電子申請による手続の簡素化で、申請手続きの軽減による円滑な支給事務を推進した。</p> <p>給食費を無償化することで、物価高騰の影響を受ける子育て世帯の経済的負担を軽減できた。</p> <p>東条学園小中学校の通学方法を変更したことで、児童の通学時の負担軽減と、より安全安心な通学を確保するとともに、開校を予定している社地域や滝野地域に対して通学方法の基準を示すことができた。</p> <p>多文化共生サポーターやこども日本語支援員を派遣し、外国人児童生徒・保護者と教員のコミュニケーションの円滑化や、生活適応、学習支援、心の安定を図ることができた。また、外国人児童生徒等の学校生活上の課題解決に向け、「加東市外国人児童生徒等支援連絡協議会」を設置した。</p>	<p>小中一貫教育推進室 教育総務課 学校教育課</p>
--	----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------

基本方針/基本的方向	取組成果	担当課
Ⅲ 人生100年時代の到来を見すえた生涯学習の推進		
①多様な学習機会の充実	<p>高齢者大学では、実施方法の工夫により全課程を実施し、学生のニーズに応えることができた。</p> <p>成人学習事業では、市民のニーズに合わせ、楽しみや生きがいが見いだせるような教室が開催できた。</p> <p>加東遺産講座では、地域の歴史に根付いた文化財や史跡を解説することで、人々の営みを振り返り、歴史遺産への造詣を深め、故郷を再認識する一助となった。</p> <p>加東市連合PTA等の各種団体において、各団体の趣旨に基づく事業の実施により、社会教育の振興につながった。</p> <p>公民館等の登録団体に対して、施設の年間予約や使用料減免等により、サークル活動を支援した。また、団体の作品等を市ケーブルテレビで放映するなど市民へ周知し、団体と来館者との交流を促し、地域のコミュニケーションを深めることができた。</p> <p>小学生チャレンジスクールや地域子ども教室では、生涯学習サポーター倶楽部の指導者の知識や経験を生かした体験活動の機会を提供することができた。</p>	生涯学習課
②人権教育・啓発の推進	<p>研修会を5回実施し、人権を尊重した明るい職場づくりについて認識を深めることができた。そのうち1回については、市民も対象とした市民公開講座として実施し、会員事業所の社員のほか、多くの市民に参加いただいた。</p>	人権協働課
③文化芸術の振興	<p>公募美術展では、昨年度導入したオンライン受付を継続し、参加者の利便性を向上することができた。</p> <p>日本木管コンクール（クラリネット部門）は申込者が121人で、前回の参加者（令和3年度：96人）から増加した。1次予選を動画による申込・審査などの工夫により、市民にレベルの高い演奏に触れる機会を提供し、文化芸術に対する関心を深めることができた。</p> <p>加東市文化祭（来場者1,067人。R4:713人）、加東市文化連盟祭（来場者1,612人。R4:758人）を開催し、日頃の成果の発表に加え、文化の育成が図れた。</p> <p>加東市文化連盟や加東市美術協会では、自己の研鑽や生きがいづくり、市内の文化活動の受け皿としての役割を果たすとともに、他事業との連携を通して、質の高い文化芸術に触れる機会を提供し、市民の文化芸術に対する興味・関心や、意識の向上に貢献した。</p>	生涯学習課
④文化財の保護と活用・継承	<p>潜在する貴重な資料を掘り起し、公開に繋げることで多方面からの関心を集めた。</p> <p>文化財に関する情報の広報や普及啓発とともに、指定文化財特別公開の見学会では市内外の人々が貴重な文化財に触れることで、地域の歴史をより身近に感じることができた。</p> <p>資料館等では、安全・安心かつ快適に観覧できるよう施設環境を改善したことで、来館者の満足度も高い数値で推移した。</p> <p>無形民俗文化財の後継者育成の支援では、中断していた無形民俗の復活が順次行われ、文化財の伝承を絶やすことなく後継者の育成に繋げることができた。</p> <p>地域主催のイベントにおいて地元の文化財を解説することで、より理解を深めてもらう機会となった。</p> <p>歴史を愛好する市内外の方々への継続した情報発信により、関心を途絶えさせることなく、地域交流の土壌や観光資源としての基盤をより強固にした。</p>	生涯学習課
⑤生涯スポーツ・レクリエーション活動の推進	<p>わくわくウォーキングでは、事業名の変更や内容の充実により過去最多の参加者数となり、参加者同士や親子の交流など多世代が交流することで、健康増進やコミュニティづくりにも寄与することができた。</p> <p>加東伝の助マラソン大会等のイベントでは、健康の増進や技術向上等の機会を提供することができた。</p> <p>施設使用料の減免や施設利用調整を行い、スポーツの活動団体やサークル等の取組を支援することで、健康の保持・増進、地域コミュニティの育成につなげた。</p> <p>社高校野球部の応援団を支援することで多くの市民が一体化し、感動を共有することができた。</p> <p>スポーツ賞表彰を行うことで、スポーツに対する意識の向上が図れた。</p> <p>各事業の開催によって、スポーツ推進委員や社会体育推進委員の技能や、指導力の向上を図ることができた。</p>	生涯学習課

⑥社会教育施設及び社会体育施設の効率的な管理・運営	社会教育施設及び社会体育施設の改修・修繕を行うことで、市民が安全に施設を利用することができた。 社会体育施設では、指定管理者制度を導入し、市民サービスの向上、質の高い施設の管理・運営に取り組めた。	生涯学習課
⑦図書館サービスの充実	スマートフォンを利用した図書館アプリにより、貸出カードの呼び出しや、簡易な本の検索が可能となり、利用者の利便性が向上した。 「おでかけ図書館」に参加した市内小学校の3年生に、自身のとしょかんカードで本を借りる体験を提供した。 読書活動推進事業として初めて行う行事を立案し、実施できた。 中央図書館2階会議室の使用方法を見直し、市民にくつろげる空間を提供した。また、2階参考図書室を開放し、利用者が自由に利用できるようにした。 図書館利用が困難な利用者に対して、図書の宅配サービスを実施した。	中央図書館